

シンポジウム：部活動地域移行と大学の役割

『部活動地域移行と大学の役割』

～福岡大学と福岡市城南区6中学校によるトライアル事業報告～

福岡大学 乾 真 寛

キーワード：中学校部活動，地域連携，地域移行，大学スポーツ資源，人材育成

目 的

福岡大学では、令和4年度・5年度の二年連続でスポーツ庁委託事業であり、大学スポーツ協会（UNIVAS）の公募事業である「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出事業」に採択され、地域スポーツ振興の課題解決のため、“福岡大学スポーツ・健康まちづくりコンソーシアム（略称：FUスポまちコンソーシアム）”を行政・自治体・企業・地元スポーツ団体（プロチーム他）との共働により設立し、事業を展開してきた。

令和4年度は、20の事業を展開し、約4千人の学外者が大学内の施設を利用して、スポーツイベントや健康づくり講座・教室等に参加した。基本的には、大学の体育会運動部が活動していない“スキマ時間”を有効活用して、キッズスポーツ、社会人向け、学校教育支援、中高年向け講座、プロチームとのコラボ企画、障がい者スポーツ支援の6カテゴリーに分かれて、それぞれ参加する方々のニーズに応える形式・形態で実施された。更に、令和5年度には、スポーツ庁から通達された全国一斉に取り組むべき重点課題とされる「中学校の部活動における週末地域移行問題」とも向き合い、福岡大学周辺の福岡市城南区にある6中学校

の校長会と連絡協議会を設置し、FUスポまちコンソーシアム事業の中で中学校部活動問題に対して、大学が果たすべき役割や可能性についてトライアル事業を行った（図）。

本シンポジウムでは、令和5年9月から12月にかけて実施した、中学校部活動地域移行の集合型トライアル事業について紹介し、今後の展望や課題に対して言及する。

方 法

集合型とは、大学周辺の6中学校の生徒が週末土曜日の部活動を、大学スポーツ施設を活用して行う、合同練習型部活動を指しており、今回のトライアルでは、サッカー、女子バレーボール、剣道、陸上競技の4競技を事例とし、中学1・2年生の延べ630名が参加して実施された。土曜日の午後3時もしくは、4時半からの90分程度の時間帯で、現役大学生（事前に研修済120人）が、顧問教員に替わり、中学校の部活動を指導した。

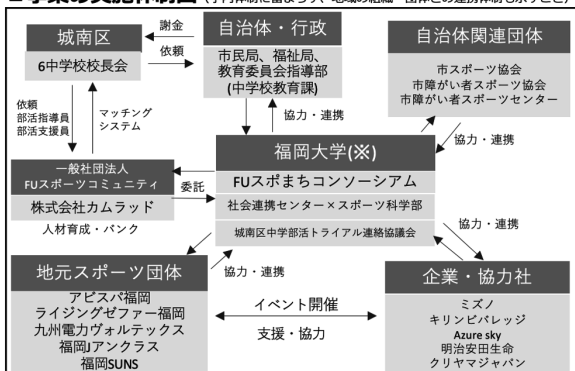
結 果

指導実践した大学生、練習参加した中学生、中学校の部活動顧問教諭からのアンケート調査も実施しており、大変興味深い結果が得られた。来年度以降への貴重な示唆を得ることができた。

考 察

今回、周辺の中学校と大学内のスポーツ施設とは、地下鉄、バス、自転車、徒歩により、比較的移動が容易であり、保護者の送迎がなくても自宅から往復できる点が、本トライアル事業の特徴でもある。また、指導者となった学生の約7割強が教員免許取得を目指す者たちであり、教員養成コースを持つ大学と地域の連携が、問題解決の大きなポイントとなることが明らかとなった。

■事業の実施体制図（学内体制に留まらず、地域の組織・団体との連携体制も示すこと）



詳しい情報はこちらのURLをご確認ください。

<https://fu-spomachi.jp>

図. FU スポまちコンソーシアム事業の実施体制

中学校部活動の地域移行問題に対して、大学が果たす役割とは何かについて、本学の取り組み事例が参考になれば幸いである。

参考文献

乾真寛（2024）大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出 — “FU スポまち” コンソーシアムの挑戦と自走化 — , 「私立大学のミライ—教育・地域貢献編—」, 大学時報, No. 418 : 96-103.